

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)岡崎定温センター 新築工事	階数	地上1F
建設地	愛知県岡崎市岡町字下野川34の一	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	*** 人
気候区分	6地域	年間使用時間	*** 時間/年
建物用途	事務所,工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年9月 予定	評価の実施日	2017年1月25日
敷地面積	6,731 m ²	作成者	天津 一裕
建築面積	3,529 m ²	確認日	2017年1月25日
延床面積	3,528 m ²	確認者	天津 一裕



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

標準値 BEE=1.0

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30% ☆☆☆☆ 60% ☆☆☆ 80% ☆☆☆ 100% ☆☆☆ 100%超: ☆☆☆

①参照値 100%
②建築物の取組み 79%
③上記+②以外の 79%
④上記+ 79%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Q のスコア = 2.7**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR 環境負荷低減性 **LR のスコア = 3.3**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.8</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">16.3 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.2</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	全体
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音				2.6	0.15		-	2.6
1.2 遮音				3.0	0.40		-	2.8
1 開口部遮音性能				3.0	0.40		-	
2 界壁遮音性能				3.0	0.60		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	0.40		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-		-	
1.3 吸音				1.0	0.20		-	
2 温熱環境								
2.1 室温制御				2.3	0.35		-	2.3
1 室温		冬季24度・夏季24度の室温実現可能な能力の空調機器を設置		3.7	0.50		-	
2 外皮性能				5.0	0.38		-	
3 ソーン別制御性				3.0	0.25		-	
2.2 湿度制御				3.0	0.38		-	
2.3 空調方式				1.0	0.20		-	
				1.0	0.30		-	
3 光・視環境								
3.1 昼光利用				3.1	0.25		-	3.1
1 昼光率				3.0	0.30		-	
2 方位別開口				3.0	0.60		-	
3 昼光利用設備				3.0	0.40		-	
3.2 グレア対策				3.0	0.30		-	
1 昼光制御				3.0	1.00		-	
3.3 照度		計画照度750ルクス		4.0	0.15		-	
3.4 照明制御				3.0	0.25		-	
4 空気質環境								
4.1 発生源対策				3.3	0.25		-	3.3
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆を使用		4.0	0.50		-	
				4.0	1.00		-	
4.2 換気				2.3	0.30		-	
1 換気量				3.0	0.33		-	
2 自然換気性能				3.0	0.33		-	
3 取り入れ外気への配慮				1.0	0.33		-	
4.3 運用管理				3.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視				1.0	0.50		-	
2 喫煙の制御		喫煙室以外は建物内禁煙		5.0	0.50		-	
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ				3.1	0.40		-	3.1
1 広さ・収納性				2.6	0.40		-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33		-	
3 バリアフリー計画				2.0	0.33		-	
1.2 心理性・快適性				3.0	0.33		-	
1 広さ感・景観				4.0	0.30		-	
2 リフレッシュスペース		事務所の天井高さは2.7m		4.0	0.33		-	
3 内装計画		休憩室88.08㎡/事務室83.56㎡x100=105% 自販機2台設置		5.0	0.33		-	
1.3 維持管理				3.0	0.33		-	
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.30		-	
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50		-	
				3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震				2.9	0.31		-	2.9
1 耐震性				3.0	0.48		-	
2 免震・制振性能				3.0	0.80		-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.20		-	
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.33		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.23		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		クロス貼り20年		3.0	0.23		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				4.0	0.09		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.08		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.15		-	
2.4 信頼性				3.0	0.23		-	
1 空調・換気設備				2.8	0.19		-	
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20		-	
3 電気設備				2.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20		-	
5 通信・情報設備				3.0	0.20		-	
3 対応性・更新性								
3.1 空間のゆとり				3.3	0.29		-	3.3
1 階高のゆとり		階高3.9m以上		4.2	0.31		-	
2 空間の形状・自由さ				5.0	0.60		-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.40		-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.31		-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.38		-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.17		-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.17		-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11		-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.11		-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22		-	

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
		Q3 室外環境(敷地内)						-
1 生物環境の保全と創出	独自③			1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30		-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50		-	
LR1 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制				4.0	0.04		-	4.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.27		-	3.0
3 設備システムの高効率化				4.0	0.41		-	4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEI=0.71		4.0	1.00		-	
集合住宅の評価(3c)					-		-	
4 効率的運用				3.0	0.28		-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00		-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50		-	
集合住宅の評価					-		-	
4.1 モニタリング					-		-	
4.2 運用管理体制					-		-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護				3.4	0.15		-	3.4
1.1 節水		節水型便器を使用		4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.4	0.63		-	3.4
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.21		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	② 独自	I 類タイル(エントランスポーチ)、樹脂製フリーアクセスフロア(車		4.0	0.21		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	躯体と仕上げ材が容易に分別可能		4.0	0.25		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68		-	
1 消火剤				-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50		-	
3 冷媒				3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮				①	3.8	0.33		3.8
ライフサイクルCO2排出率は86%				2.4	0.33		-	2.4
2 地域環境への配慮				3.0	0.25		-	
2.1 大気汚染防止				2.0	0.50		-	
2.2 温熱環境悪化の改善				2.7	0.25		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制	独自			3.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33		-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40		-	
1 騒音	独自			3.0	0.33		-	
2 振動	独自			3.0	0.33		-	
3 悪臭				3.0	0.33		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40		-	
1 風害の抑制				3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制					-		-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明の立ち外に漏れる光への対策				3.0	0.70		-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30		-	

重点項目スコアシート

(仮称)岡崎定温センター 新築工事

実施設計段階

■ 使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

■ 評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.8
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.8	0.10	
② 資源の有効活用				3.2
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.12	外構緑化:16.3%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■ 重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	設備システムの高効率化を図り、エネルギー使用量を削減しています。
Q1 室内環境	・F☆☆☆☆建材を使用しています。
Q2 サービス性能	・事務所の天井高さを2.7mに設定しています。
Q3 室外環境(敷地内)	建物の高さを低くし、まちなみに配慮しています。
LR1 エネルギー	設備の高効率化をはかり、BEI値が基準値を下回っている。
LR2 資源・マテリアル	・躯体と仕上げ材が容易に分別可能になっています(躯体+軽鉄+PB)。
LR3 敷地外環境	・ライフサイクルCO2排出率は86%となっています。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。